

平成22年6月21日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18520514
 研究課題名（和文） 日本中世における紛争と秩序形成に関する研究—山野紛争関係史料の収集と体系化—
 研究課題名（英文） A study about the dispute and the order formation in Japanese Middle Ages
 研究代表者 小林 一岳（KOBAYASI KAZUTAKE）
 明星大学・人文学部・教授
 研究者番号：20298061

研究成果の概要（和文）：日本の中世社会において、山野をめぐって紛争がどのように発生し、また解決されたのかを検討した。さらに、その結果地域社会にどのような形で秩序が形成されたのかについての研究を行った。具体的には、中世の山野紛争に関する史料を収集し、時期ごとに区分してその特徴について検討を行った。また、いくつかの地域の事例を検討し、通時的に紛争の特質の変化を検討した。その結果、紛争と地域環境の段階的な関係変化について明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：I went round the fields and mountains, and a dispute occurred how in society in the Japanese Middle Ages and examined whether it was settled again. Furthermore, I performed the study that, as a result, what kind of form order was formed of by the community. I collected historical materials about the fields and mountains dispute of the Middle Ages and I sorted it every time and examined a characteristic to be concrete. In addition, I examined some local examples and examined the change of the characteristic of the dispute diachronically. As a result, I was able to clarify it about a dispute and a local environmental step-by-step change concerned.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	800,000	0	800,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
総計	3,300,000	750,000	4,050,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：紛争・環境・秩序・村

1. 研究開始当初の背景

21世紀の人類にとって最大の課題は、戦争と環境問題であるといえよう。このふたつの問題は、一見別々の問題であるかのように見えるが、「資源」という人間の側からの自然へ

の働きかけ（開発・利用）を中に入れて考えるならば、実は密接に関係している問題であることは明らかである。そして、歴史的な視点に立った場合も、このふたつは密接に関係している。

日本の中世社会は、戦争の時代と言うことができる。もちろん中世社会全体を見れば、比較的平和な時期も存在したが、その平和＝秩序も紛争・戦争を前提としながら形成されていた。そしてそのような状況は、在地社会から国家レベルまでを覆っていたのである。このような紛争と秩序形成との関係について明らかにすることは、中世社会研究の最も重要な課題のひとつである。

中世社会の戦争や紛争は、村という共同体を最も基礎的な単位として現れる。そしてその紛争の最も大きな原因が、山野をめぐる紛争であるということができよう。中世の山野は、村の再生産のためには欠くことができないエリアであるということにとどまらず、その資源は流通を通じて商品化され、都市部で大量消費されていたのである。その山野資源も用木という建築用材にとどまらず、薪炭というエネルギー資源、鉱山資源、肥料としての草等にも及び、多様で重層的な資源利用がなされていた。中でも薪炭等のエネルギー資源は、社会全体にとって大きな意味を持ち、山野はまさに現在の石油産出国と同じような重要な資源地帯であったのである。そのため、その資源をめぐる紛争は熾烈にたたかわれ、また逆にその紛争を通じての秩序も地域から形成されていったのである。

このように、山野紛争を通じての地域秩序の形成過程を明らかにすることは重要な研究課題であるといえよう。

2. 研究の目的

本研究においては、山野資源をめぐる紛争関係史料について、11世紀から16世紀までを4つに時期区分した上で、できる限り網羅的に収集・体系化し、公開可能なデータベースを作成することを目的とする。そのうえで、いくつかの重要な事例について、史料検討やフィールドワークを通じて分析研究をすすめる、山野紛争とそれを通じての秩序形成という切り口から、日本中世社会の段階的特質について明らかにしたい。

従来の日本中世史における地域社会研究は、それぞれの荘園領主・在地領主や村落が史料を残すという状況に規定され、個別の荘園研究や村落研究、または武士団や在地領主研究が主なものであった。そのため、領主の支配領域や村落を越える研究は、さまざまな方法的模索がなされつつも、なお研究上の困難さを有していた。しかし、中世社会においては支配領域や村を越えた地域社会が存在し、それは緊張や対立を含み込み、時には武力紛争に至りつつも、全体として緩い秩序が形成されていたのである。このような紛争と秩序形成を通じて形成された地域社会の実態を明らかにすることは、中世社会を考える

上では重要な視角であり、これを実現するためには個別史料のワクを越えた、関係史料の包括的なデータベース化が不可欠であろう。

この研究では、中世社会を4つの時期に区分して検討を進めていく。具体的には、①平安～鎌倉前期、②鎌倉後期～南北朝期、③室町期、④戦国期の4つの時期区分である。それぞれの時期は、①領域型荘園の形成期、②領域型荘園の動揺期、③荘園の再編と惣村の形成期、④荘園の崩壊と領域権力の形成期に対応している。これらの時期区分に応じて、山野紛争関係史料を網羅的に収集し、いくつかの特徴的な紛争事例について、フィールドワークも含めて集中的に分析・研究を行うことで、それぞれの時期の山野紛争と秩序形成の特色を明らかにすることが目的である。

3. 研究の方法

本研究は、中世全体にわたって山野紛争関係史料のデータベース化を進めるとともに、いくつかの時期区分を行って、それぞれの時期における紛争の特色を明らかにしようとするものである。

その時期区分としては①平安～鎌倉前期(11～13世紀前半)、②鎌倉後期～南北朝期(13世紀後半～14世紀)、③室町期(15世紀)、④戦国期(16世紀)の4つの時期区分とした。データベース化の方法としては、現在活字化・刊行されている史料集から、山野紛争関係史料を収集する作業を進めた。具体的には、『平安遺文』・『鎌倉遺文』・『南北朝遺文』・『戦国遺文』・『大日本史料』・『大日本古文書』・『看聞日記』・『大乘院寺社雑事記』等の記録類、及び各県史・市町村史などの自治体史である。中世史料の活字化は現在飛躍的な形で進展していることもあり、これらの作業により関係史料をかなり網羅することが可能である。

実際の作業は、作成した情報カードに必要項目を記入する形で行った。情報カードには山野紛争に関する、①年、②月、③日、④地域、⑤紛争当事者、⑥紛争の原因・状況、⑦解決方法、⑧原出典、⑨掲載書誌等の情報を盛り込んだ。

史料収集と情報のカード化の作業をすすめるとともに、それをコンピュータの表計算ソフトに入力しデータベース化する作業を行ったそれと同時に、中世における紛争地域のフィールドワークを実施した。具体的には山城国禪定寺を中心とする地域を調査対象とした。禪定寺は京都近郊の宇治にある古刹で鎌倉期からの文書群である「禪定寺文書」を所蔵している。禪定寺及び禪定寺村は曾東荘等の周辺地域と、中世を通じてまた近世に入っても山野をめぐる紛争を繰り返し行っていた。禪定寺のみならず周辺地域を視野に入れることで、紛争と地域秩序の形成につい

て検討することが可能となる希有な地域である。具体的には宇治田原市禪定寺地区、大津市大石・龍門地区、大津市小田原地区、大津市曾東地区を調査対象地区として、文書の確認調査や関係史料の調査、及び山の利用や紛争の伝承などについての聞き取り調査を行った。また、宇治市炭山地区も調査対象地域とした。炭山は醍醐寺膝下の寺領で、室町期に伏見荘等の近隣荘園との激しい山野紛争を繰り広げた地域であり、それは『看聞日記』や『満濟准后日記』等に詳しい。禪定寺や曾東荘地域とは宇治川を隔てていて、山間地域として共通の地域的特質を持ち、鎌倉期と室町期の山野紛争の比較研究もできる可能性を持つ地域であり、禪定寺周辺村落と比較的に検討することで、より豊かな研究ができると考えられる。

4. 研究成果

(1) 本研究の中心となる山野紛争関係史料の収集とデータベース化については、『平安遺文』・『鎌倉遺文』が刊行されている平安～鎌倉期についてはほぼ終了した。南北朝～戦国期については、あたらなければならない史料集の数も増え、自治体史を中心とした刊行史料も多いため、研究代表者・研究分担者(連携研究者)・研究協力者で作業を分担した。分担は、関東・東北・東海・中部・北陸・畿内、中国・四国、九州という形で地域ごとに分担して作業をすすめた。

作業としては、全体として80パーセント程度の史料収集となっている。今後継続して調査・研究を行い、さらに科学研究費の申請を行うことで、成果を公表することに努めたい。

なお平安～鎌倉期の山野関係史料データベースについては一覧表の形で2010年3月に刊行した「研究成果報告書」において公開した。今後継続的な研究が必要であるが、領域型荘園の形成と山野紛争との関係について、および領域型荘園の変質と山野紛争の関係について考えるべきデータが整理され、研究に大きく寄与すると考えられる。

(2) 事例研究としては、京都府宇治田原町禪定寺周辺地区と京都府宇治市炭山地区を対象とした。

①禪定寺地区においては、まず山野紛争関係史料の所在確認調査を行った。その結果、禪定寺文書については「十巻文書」として巻物に整理され、現在京都府立総合資料館に寄託されている文書以外に、多くの文書が宇治市歴史資料館に寄託されていることが明らかになった。また禪定寺区有文書・小田原区有文書・龍門深沢家文書の所在が確認された。これらの文書については写真撮影を行い、目録の作成作業を行った。その結果、禪定寺文書(暫定版、約1500点)と小田原区有文書

についての目録を作成し、「研究成果報告書」に所収した。

特に禪定寺文書(宇治市歴史資料館寄託分)の中に、ほとんど未紹介の中世の帳面類が確認され、紹介できたことは大きな成果とすることができる。これらの帳面を利用することで、禪定寺地域の秩序形成のあり方と山野紛争との関係について、より詳細な研究が可能になると考える。

また禪定寺地域とともに、周辺の滋賀県大津市大石・龍門・曾東・小田原地域において山地名・古地名等の聞き取り調査を行い、棟札などの地域の歴史を示す史料調査も行った。成果については「研究成果報告書」で公開した。

②炭山地区については、文書の所在調査を行ったが、庄屋文書などの文書は確認することはできなかった。今後は醍醐寺文書中の炭山関係文書の調査・研究をすすめる必要があると思われる。炭山では山の所有形態や山利用、街道や伏見等の近隣地域との関係等についての聞き取り調査を行った。また下炭山の女人堂に多数の石造物が存在することが確認できた。史料の少ない炭山では貴重な史料とすることができる。銘文がある石造物については撮影・カード作成を行った。これらの成果については、「研究成果報告書」で公表した。

(3) 禪定寺・炭山地域と同時に、従来から研究対象としていた山間荘園である、丹波国和知荘についても比較的な研究を行った。その成果については、2007年に図書として刊行した。また中世の紛争と地域社会について、研究代表者・研究分担者(連携研究者)・研究協力者による研究会を行い、それぞれの研究テーマで報告を行った。研究会の成果については2009年に図書として刊行した。さらに「紛争史の現在」というテーマでヨーロッパ中世～近世の研究者と合同のシンポジウムを企画した。その成果については2010年に図書として刊行予定である。本研究の成果についても、現在図書の刊行を準備しており

(『京都近郊地域の紛争・秩序・交流』(仮題))、これも2010年に刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

[図書] (計2件)

- ① 蔵持重裕, 他、岩田書院、中世の紛争と地域社会、2009、396
- ② 小林一岳, 他、岩田書院、山間荘園の地頭と村落—丹波和知荘を歩く、2007、357

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 一岳 (KOBAYASI KAZUTAKE)
明星大学・人文学部・教授
研究者番号：202298061

(2) 研究分担者

蔵持 重裕 (KURAMOTI SIGEHIRO)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：70153369
(H19—H21：連携研究者)

酒井 紀美 (SAKAI KIMI)

茨城大学・教育学部・教授
研究者番号：60400595
(H19—H21：連携研究者)

則竹 雄一 (NORITAKE YUITI)

明星大学・兼任講師
研究者番号：30424782
(H19—H21：連携研究者)